

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述式・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加

難易 (易化)・やや易化・変化なし・やや難化・難化

昨年度に比べ、論述式設問の総字数 (615 字) が減少した (昨年度総計 880 字)。

昨年度出題された制限字数 400 字以内という分量のある論述の出題はなかった。

論述問題が複数出題されるので、時間内に仕上げるのに苦労するだろう。

出題の特徴や昨年との変更点

大問は 4 題構成で、ほぼ時代別での出題。

記述式設問 23 問。論述式設問 9 問。

論述式設問の字数は、25 字以内から 90 字以内までで、総字数は 615 字となり、昨年度と比べて減少した。

例年多くの大問で出題されている、史料の読み取り論述問題は、第 2 問～第 4 問で出題された。

第 2 問で絵図の読み取り、第 4 問で地図問題が出題された。

今年度は戦後史から出題されなかった。

その他トピックス

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	記述・論述 (25 点)	A. 蝦夷と隼人 B. 藤原北家の台頭	問 2 は坂上田村麻呂の征夷についての論述が、問 7 は摂政の職務について関白との違いから説明する論述が出題された。	標準
[2]	記述・論述 (25 点)	宇佐神宮の歴史	院政期から織豊期までを扱っている。問 2 でヒントとなる歴史用語を伏せた年代整序が出題された。問 3 では絵図中の弥勒寺の有無から神仏習合・神仏分離を想起したい。	標準
[3]	記述・論述 (25 点)	近世日本をとりまく国際環境	問 6 では史料を丁寧に読み取り、黒砂糖の専売強化による財政再建を想起して答案を作成したい。	標準
[4]	記述・論述 (25 点)	大日本帝国の領土	問 8 は史料に基づいて委任統治を説明する問題。史料から必要な情報を抽出するのに苦労しただろう。	標準

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

記述式設問については、教科書レベルの日本史用語を正確に理解するとともに、正しい漢字表記ができるように常日頃から学習しておく必要がある。史料問題が出題されるので、少なくとも教科書掲載の頻出史料については読んで理解しておきたい。論述問題が 9 問出題され、総字数は 615 字となっている。時間内に答案を作成するためには、日頃から論述対策にきちんと取り組んでおかなければならない。